

# 幼児教育における特別支援グループ研究会

グループ員：吉村 宏美 (みずほ幼稚園) 渡邊 由紀 (伊丹幼稚園)  
 荒木 奈々 (稲野幼稚園) 橋本 真佐江 (南幼稚園)  
 濱地 磨未 (緑幼稚園) 郷原 里枝 (桜台幼稚園)  
 石田 裕香理 (ささはら幼稚園) 貴島 香 (ありおか幼稚園)  
 中野 真由美 (はなさと幼稚園) 神野 正子 (こやのさと幼稚園)  
 山本 容子 (せつよう幼稚園) 嶋田 幹子 (すずはら幼稚園)  
 安部 理香 (おぎの幼稚園) 野田 アズサ (いけじり幼稚園)  
 佐竹 和美 (こうのいけ幼稚園) 大野 裕理恵 (みずほ幼稚園)

担当指導主事：時村 孝完

キーワード：特別支援教育 幼児教育 幼児理解 教材研究 情報共有

## 1 研究テーマ

「支援を要する幼児への指導・支援について」

## 2 研究内容

特別支援教育拠点園における感覚統合遊具の遊び方表の作成

(1) 感覚統合遊具の遊び方・ねらい・育つ力を段階的に示す表の作成

① 感覚統合遊具の遊び方・ねらいの段階表を作成

感覚統合遊具について、文献と資料、南幼稚園とみずほ幼稚園で作成されている表示をもとに、通級指導で使用している遊具のねらいや目的、使い方などを整理した。

② グループワークの内容を検討

グループワークで考えたねらいや遊び方を全員で検討した。全員で意見を出し合うことで、グループの中だけでは気付かなかった点について修正を行った。

③ 作業療法士の森田先生からの講話をもとに表を再検討

南北合同担当者会の中で考えた表について、作業療法士である森田先生に助言をいただいた。そこでの内容は、「作成した表は、達成までの遊びの段階が細かい」という指摘であった。よって、「慣れる→楽しむ→工夫する（道具を使う）等の大きな分け方の方がよい」という助言をもとに修正すべき点を整理した。

## 3 成果と課題

(1) 成果

① 自分達で普段使用している遊具の遊び方や育つ力を整理していく中で、今まで気付かなかった新たな遊び方に気付くことができた。

② 1つの遊具で様々な遊び方があることが理解でき、実際に遊ぶ場で、一人一人に合った支援の見通しをもつことができた。

(2) 課題

① 現在、表を整理した段階で終わっており活用には至っていない。今後は、作成した表を活用していく必要がある。

② 常に再検討を行いながら、自分達の使いやすいものに修正を加えていく必要がある。

